

壁面装飾制作で季節を感じよう！

— 関西医科大学附属病院分教室の自立活動実践 —

関西医科大学附属病院分教室

1 壁面装飾制作

本分教室は、関西医科大学附属病院の5階の小児病棟の中にあり、児童生徒は腫瘍・血液疾患・膠原病などの疾患をかかえて入院している。病院内での生活のため、外に出る機会もほとんどなく、室内の温度も管理されていて、季節を感じる事が普段の生活でもあまりない。そのため、季節を感じる事ができるものを月ごとの行事や旬の食べ物、自然などその時々季節を感じるものを取り入れた壁面装飾制作を自立活動の時間で行っている。小学生から中学生まで年齢を超えみんなで一緒に壁面装飾制作に取り組んでいる。壁面装飾は小児病棟内の掲示板に月替わりで掲示される。親子で壁面装飾を見て会話したり、一緒に書いてあるクイズを解いたりと飾られた後も様々な人たちの目を楽しませている。そんな壁面装飾制作の一場面を紹介する。

2 壁面装飾制作セレクション

(1) 「鯉の滝登り」(5月)



子どもの日にちなんで、鯉の壁面装飾制作を行った。中学部一年生が一筆書きで鯉を描いた。数回練習しその中で、一番良いものを選んだ。腕だけでなく、上半身全体を使って、大きく表すようにして描いていた。完成すると鯉を描いた生徒は爽快な顔を見せていた。背景画には、日本の伝統的な技法、墨流しを用いて滝を表現した。また、小さな鯉のぼりを折り紙で折って、飾り付けた。

(2) 「沖縄美ら海水族館」(7月)

沖縄美ら海水族館のオンライン学習があり、夏ということで海を思わせる水族館をテーマにした。壁面装飾全体の構成を考える、ジンベエザメ・ウミガメ・いわしなどを作る、クイズを考える、といった3つの役割を分担し、最後にそれらを一つにして完成させた。始めは、苦手と言っていた児童生徒も、作り始めると自分でどんどん進んで作り出し細部までこだわる生徒もいた。ジンベエザメが迫力満点の壁面装飾になった。できあがった壁面装飾の前で、立ち止まってクイズを解き、沖縄美ら海水族館の話に花が咲いていた。



I 実践報告

(3) 「旬の食べもの」(10月)



秋には、「美味しい食べものがいっぱい。」ということで、10月の壁面装飾のテーマは「旬の食べもの」とした。「旬ってなあに？」から始めた。「旬とは？」「同じ食べものでも、たくさん取れて、新鮮でおいしく食べることができる季節があるんだよ。」という会話の中で、制作は進んでいった。新聞をくしゃくしゃにして丸めたものを土台にし、その上に画用紙を巻いて作ったさつまいもからは、児童生徒それぞれの個性

が出ていた。紙に絵の具で紫色を塗って小さく丸めたものをたくさん作り、葡萄ができあがっていった。魚は一つ一つそれぞれに表情があって個性的なものに仕上がった。できあがった立体的な壁面装飾に、前を通る人が振り返って見ていく姿が見られた。

(4) 「秋」(11月)

黒い画用紙で、色んな文房具などから形をとって、今までにない新しい形を作った。それを、秋の風景の中に配置して、色のコントラストと形のおもしろさを味わう壁面装飾とした。できあがった壁面装飾を、自分のタブレットで写真を撮る生徒や地域校とのオンライン交流の時に、「これが私の作ったやつ」と紹介する児童、納得いくまで細かい作業をデザインナイフを使って進めていく生徒もいた。できあがった作品を、一人ずつ皆の前で発表した後、画用紙に貼り完成させた。できあがった形に面白さを感じている様子が伺えた。芸術の秋にふさわしい作品に仕上がった。



3 最後に

壁面装飾制作を通して、普段はあまり関わる機会の少ない、異なる学部間の交流の場にもなっていた。行事の振り返りや季節の学習も共にできた。できあがった壁面装飾を楽しむにしてくれる人がいることは児童生徒の励みにそして何より「今日は壁面装飾制作をするよ。」という「やったー」という児童や、「次いつするの？」と次回の制作の時間を楽しみにする生徒など嬉しい言葉が聞けたことが何よりだった。今後も、壁面装飾制作を通して、児童生徒の笑顔を引き出していけたらと思う。